

おたふくかぜの予防接種を受けられる方へ

1. 病気について

◆ おたふくかぜ

おたふくかぜは流行性耳下腺炎とも呼ばれ、ウイルスによって起こる病気です。耳の下（耳下腺）のはれと発熱が主な症状で、ほとんどの人が2～9歳頃にかかり、特に3～4歳にかけて多く見られます。潜伏期間は2～3週間で、学校伝染病の1つに指定されており、耳下腺のはれが消えるまでは、登校・登園が禁止されます。おたふくかぜの合併症として、無菌性髄膜炎が2～3%位に起こっています。また、離聴が数万人に1人程度起こっています。男子が思春期以降にかかった場合には、精巣（睾丸）炎を併発することもあり、不妊（男性不妊）症を起こす心配があります。

2. ワクチンの接種について

- ① おたふくかぜワクチンの接種は、任意で受けてほしい方が自費で接種を受けることになっています。
- ② 接種年齢は1歳を過ぎれば受けられますが、感染のピークとなる3歳頃までに受けることが望まれます。おたふくかぜにかかっていなければ、それ以降の年齢の方や、大人でも受けられます。このワクチンを接種後、約90%の人に免疫ができます。
- ③ 流行期間中に、おたふくかぜの人と共に居合わせたことにより、すでにかかってしまっている場合があります。その場合、接種を受けても予防が間に合わず、おたふくかぜの症状が出てしまうことがあります。周りにおたふくかぜの人がいる場合は、接種を見合わせて下さい。ただし、自然におたふくかぜにかかった時期（潜伏期間中）と、ワクチンを受けた時期が重なっても、特に症状がおもくなるような心配はありません。

3. ワクチン接種後の副反応

- ① 接種後2～3週間たった頃、まれに発熱、耳下腺のはれ、嘔吐、咳、鼻汁などを認めることがありますが一般に症状が軽く、通常数日中に消失します。
- ② 自然のおたふくかぜにかかった場合に比べて頻度は少ないのですが、ワクチンによると疑われる無菌性髄膜炎が接種後2～3週間頃、まれに発生することがあります。
- ③ 接種を受けた後、無菌性髄膜炎にかかりますと発熱、嘔吐、頭痛などの症状が現れます。このような症状が出た場合には、速やかに医師の診察を受けて下さい。

4. 予防接種を受けることができない人

- ① 接種直前の体温が37.5℃以上ある人
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- ③ その他、医師が予防接種を受けることが不相当と判断した人

5. 予防接種を受けた後の注意

- ① 接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこすることはやめましょう
- ② 接種当日は接種部位を清潔に保ち、いつも通りの生活をしましょう
ただし、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう
- ③ 高熱やけいれんなどの異常な症状が出た場合は、速やかに医師の診察を受けてください